

会 議 録

1 会議名	令和5年度 第1回 南砺市立図書館協議会
2 議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告事項</li> <li>(1) 南砺市立図書館の概要について（組織体制、職員の配置）</li> <li>(2) 南砺市立図書館の状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和3年度 富山県内公立図書館の状況について</li> <li>② 令和4年度 利用状況について</li> <li>③ 令和4年度 蔵書の状況について</li> <li>④ 令和4年度 図書館主催事業について</li> <li>⑤ 第4次南砺市子ども読書活動推進計画進捗状況について</li> </ul> </li> <li>(3) 令和5年度 南砺市立図書館運営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 図書館予算について</li> <li>② 自主事業について</li> <li>③ 雑誌スポンサー制度の実施状況について</li> </ul> </li> </ul>
3 開催日時	令和5年6月27日（火）午後1時55分から午後3時05分
4 開催場所	南砺市役所 3階 302会議室
5 出席者	<p>南砺市立図書館協議会委員 出席9名／全11名</p> <p>委員：武田和一、岩井 透、干場 健、杉下悦子、瀬戸広美、前田悟志、川田真紀、山下美紀、西野真夫</p> <p>事務局：教育長、教育部長、生涯学習スポーツ課長、教育総務課長、こども課長、中央図書館長、福野図書館副主幹、中央図書館副主幹、中央図書館副主幹</p>
6 欠席者	嶋田充宏、唐嶋田鶴子
7 傍聴者	無し
8 議事内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会 保市図書館長</li> <li>・ 開会あいさつ 松本教育長</li> </ul> <p>図書館協議会では、これまでたくさんのご意見をいただき今の図書館の姿になっている。そして、いろいろな事業はこの図書館協議会から提案していただいたものを具体化しており、今後も、ご忌憚のないご意見をいただき形にしていきたい。来年度からは特に図書館が大きく変わる。今後もみなさんから貴重なご意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任命書の交付 あらかじめ配布してある任命書をもって交付</li> <li>・ 委員の自己紹介 名簿順にて自己紹介</li> <li>・ 事務局の紹介</li> <li>・ 会長・副会長の選出</li> <li>・ 会長のあいさつ</li> </ul> <p>年々、図書館も充実してきている。そして満足したシステムになってきていると思う。今後も、委員のみなさんのご意見で図書館をより良い方向へ進めていけたらと思う。</p>

・進行 武田会長

・報告事項

(1) 南砺市立図書館の概要について説明

事務局：(資料2に沿って説明)

南砺市立図書館は、中央図書館と4つの地域館、3つのサービスコーナーで運営されている。職員の配置は、蔵書のある図書館5館に27人の職員が配置されている。なお、正規職員は司書の新規採用で1名増え6人となり、うち司書資格を持っている職員は4人、職員の約5分の4の21人が会計年度任用職員で、そのうちの5分の3にあたる18人が司書資格を持っている。

(2) 南砺市立図書館の状況について

i 令和3年度 富山県内公立図書館の状況について

事務局：(資料3に沿って説明)

南砺市は、黄色で塗りつぶしてあるところ、「住民1人当たりの令和03年度の図書館費」「住民1人当たりの令和02年度末蔵書冊数」が県内の市でトップとなっている。

「職員1人当たりの人口(会計年度任用職員含む)」「住民1人当たりの令和03年度の図書館費」「R02年度年間購入図書冊数」は2番目、「個人貸出登録率」は3番目、「住民1人当たりの令和02年度貸出図書冊数」は4番目、「個人貸出登録者1人当たりの冊数」は7番目となっている。

ii 令和4年度 利用状況、iii 令和4年度 蔵書の状況について

事務局：(資料4、資料5に沿って説明)

令和4年度は、コロナによる臨時休館はなかったが、座席の間引きや、滞在時間の短縮等の制限を設けて開館した。来館者は少しずつ戻ってきたが、貸出冊数は減少している。令和4年度の南砺市の人口1人当たりの貸出冊数は、5.2冊である。

蔵書数の推移は、令和3年度と比較し、令和4年度の蔵書冊数は減少している。主な要因は、令和4年度購入した冊数に比べ、除籍冊数が上回っており、主に書庫に保管されている旧町の資料で、複本等を集中的に除籍したため、蔵書冊数は減少した。

iv 令和4年度 図書館主催事業について

事務局：(資料6に沿って説明)

「なんと！こども読書週間」と「なんと！図書館まつり」は全館共通で実施しており中でも「おたのしみセット」は大変好評である。コロナ禍から少しずつ落ち着き、令和4年度は多くのイベントを実施した。令和4年度に新規に実施した事業を赤字で示し説明。9p 富山地方法務

局からの依頼で、「相続・遺言関連」の展示、南砺市交通安全協会との連携で「反射材着用推進サテライト作戦」を実施した。主な活動②令和3年度「新春おたのしみ抽選会」を令和4年度「新春福引」に名称を変更。12p⑮南砺市型学校司書モデル事業は、令和3年4月から吉江中学校に派遣、令和4年4月から、福野中、井波中、城端中学校に司書を派遣した。

v 第4次南砺市子ども読書活動推進計画進捗状況について

事務局：(資料7に沿って説明)

第4次南砺市子ども読書活動推進計画(令和4年度～8年度)進捗状況の令和4年度(初年度)事業について報告、図書館協議会に提出、承認いただき、南砺市ホームページへ公表する。5年間の基本方針は、(1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進、(2)家庭・地域、図書館・学校等を通じた社会全体での取り組みの推進で進め、5つの具体的な方策、更に基本施策のとおり進める。第4次計画は、基本施策ごとに数値目標を設定しているが、第4次計画から新たに追加した(1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進についての数値目標がないため、「なんと！バースデーブック事業」と「高等学校と市立図書館の連携イベント」の項目を追加する。

顕著な取り組み5項目を報告(資料：説明1～説明5)

**説明1** 具体的な方策(2)－①家庭・地域における子どもの読書活動の推進「エ 保健センターにおける読書活動の推進」(保健センター) ①図書館や子育て支援センターと連携して、乳幼児期に絵本とふれあう大切さや読み聞かせの大切さを伝える場とする。①あかちゃんに絵本を配布数R08年目標100部に対し、R04年度は44部、進捗状況は0.44。妊娠期の図書館への来館のきっかけづくりや、令和5年度からスタートする「なんと！バースデーブック事業」を周知し、本に出合うことで、妊娠期や子育ての悩みが和らぐ取り組みを行う。

**説明2** 具体的な方策(2)－②市立図書館における子どもの読書活動の推進「ウ 読み聞かせおはなし会等の開催」(中央図書館) 市内の読み聞かせボランティア団体は7団体で、図書館以外の施設でも活動している。ボランティアグループから依頼があった、研修や育成、支援に努める。

**説明3** 「オ 啓発広報」(中央図書館) 市立図書館のホームページが令和4年11月にリニューアルした。定期的に、乳幼児、小・中高生向けのおすすめ本リストを発行している。「どの絵本にしようかな」のR08目標値は年4回に対して、R04年度実績値は年3回で達成度0.75、中高生向けの青少年向け新着図書案内は、目標値年12回に対して、実績値

年12回で達成度1.00。今後も図書館へ行きたくなるよう、テレビ、広報誌やホームページ、なんとHug等で更に情報を発信する。

**説明4** 具体的な方策(2) - ③学校における子どもの読書活動の推進  
イ 学校図書館担当職員の配置」(教育総務課)

学校図書館担当職員の情報交換や研修等で資質向上を図っている。①オリエンテーションの実施は、R08目標値は15校、R04実績値16校、達成度1.00。目標値が上回るのは、令和6年4月に利賀小・中学校が義務教育学校で開校するためである。図書館との連携事業「学校司書モデル事業」は、今後は小学校4校(福野・井波・城端・南砺つばき学舎)に拡充する。

※資料の訂正のお願い

①学校司書研修の参加人数の目標値を11人に、達成度を0.91に変更を依頼。

**説明5** 「エ 学校図書館の蔵書管理システム化」(教育総務課)

現在、小中学校ごとに、システム化されているところとされていないところがある。現在、市立図書館と学校図書館の共通システム化の構築作業を行っており、令和6年3月26日稼働に向け、学校と市立図書館が連携を図り推進する。

(3) 令和5年度 南砺市立図書館運営計画について

i 図書館予算について

事務局:(資料8に沿って説明)

特に増加したところは、「1 図書館管理運営費」の報酬・給与等の図書館デジタル化推進事業の共通システム化準備に伴う会計年度任用職員の人件費4名分(7,342千円)、施設維持管理費等の図書館デジタル化推進事業の委託料需用費等(235,801千円)、この事業は、国のデジタル田園都市国家構想交付金の補助金(99,991千円)を受ける。「なんと!バースデーブック事業」に795千円。その他は、令和4年度と大きく変わらない。

ii 自主事業について説明

事務局:(資料9に沿って説明)

新たに開始する事業や拡充するものを、表中赤字で示している。共通事業は、南砺市型学校司書モデル事業の拡充。福野小、井波小、城端小と南砺つばき学舎に司書を派遣する。

「すべての市民に図書館を」

図書館は、0歳から高齢者まで誰一人取り残さない図書館サービスとして、生まれてすぐに図書館利用カードを作成することができ、1歳の誕生には1人2冊の絵本をプレゼント、保育園等に絵本や育児本を

「なんとみらい文庫」で貸出し、小中学生には今後の共通システム化によって、一人1台タブレットを利用した本の予約で学校でも市立図書館の本を貸出・返却ができるようになる。

市内2つの高校との連携事業として子ども向けにおはなし会を実施している。交通弱者でもある高齢者には、最寄りの交流センターで本の受取り・返却ができるようにする。小さい頃から身近に本がある環境をつくり出し、生涯学習の推進を図る。今後は、こども課や保健センターと更に連携を図り、妊婦健診等でのサポートも考える。

図書館デジタル化推進事業「市立図書館と学校図書館の共通システム化」

現状は、市立図書館は共通システム化、学校は共通システム化されていない。今後、学校と市立図書館の共通システム化、図書館利用カードと資料のバーコードの共通化、市立図書館にはICタグを添付し、セルフ貸出機等を導入する。学校では、読書履歴や記録を確認するため、ラベルプリンタを導入し、読書シールによる読書の励みになる取り組みを行う。メリットとして、学校では市立図書館の本も借りることができ、本への興味や関心を持つことにつながる。学校等への本の巡回便を検討しており、図書館が身近なものになる。共通システム化と学校司書モデル事業で、更に学校と市立図書館の連携が強化される。

「南砺市立図書館と学校・地域との連携」

青字青囲いは、現在行っていること、赤字ピンク囲いは今後行うことである。地域づくり協議会や病院でも、本の受取りや返却ができるように準備を進めている。

「なんと！バースデーブック事業」

こども課の「なんとのお宝お祝い事業」と連携し、市内在住の1歳を迎えた児童に、リストの17冊の絵本の中から2冊を選んでいただきプレゼントする。令和5年度対象者240人、現在、令和4年4月生まれの申請者は24名中7名、5月生まれ16名中3名である。

iii 雑誌スポンサー制度の実施状況について説明

事務局：(資料10に沿って説明)

変更箇所は赤字で示した。令和5年度の事業者は19社、雑誌タイトルは23タイトルで163,472円の雑誌購入費を負担していただいている。

※資料の訂正のお願い…No.14のカワベさんを赤字に訂正

●質疑応答・提案事項

①第4次南砺市子ども読書活動推進計画(1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進についての数値目標の設定について

委員：「①なんと！バースデーブック事業」のR08目標値240人の根拠はなにか。

事務局：令和5年度の「なんと！バースデーブック事業」対象児童人数としている。

委員：令和6年度以降の出生人数が不明なため、目標値を人数にしないほうが良いのではないか。

教育長：人数ではなく、対象児童に対する申請者の割合（％）に修正させていただきたい。対象児童全員にプレゼントしたいため、R08目標値を「100％」と変更させていただく。

委員：前回の会議では、高校生とイベントを実施するとしていたので、反映されている。

委員：高等学校と市立図書館の連携イベントとは、高校生におはなし会をすることなのか。

事務局：高校生と市立図書館が連携して、子ども向けにおはなし会を開催する。内容と評価と改善点に、「子ども向け（児童向け）」の文言を追加する。

## ②その他

委員：「なんと！バースデーブック事業」の17冊の選書の仕方を教えていただきたい。

事務局：保護者は、子にどんな絵本を読んであげればいいかわからない方が多いため、その手助けになるよう考え選書した。日本語版が14冊、英語版が3冊ある。

委員：小学生向けの本も入っていると感じた。今後の提案として、1冊は市立図書館、もう1冊は市内の書店で選ぶ方法も良いのではないか。

事務局：今年度は、図書館を身近に利用していただくきっかけづくりとして、市立図書館に来館していただいている。開始したばかりの事業であるため、今後いろいろご意見を聞きながら考えていきたい。

委員：英語版があって素晴らしいと思う。英語圏以外（中国語やペルシャ語）の絵本もあれば検討していただきたい。

事務局：柔軟に対応したい。

会 長：南砺市に住むすべての1歳児が対象か。

事務局：対象である。

委 員：小学校低学年を対象に、ボランティアによる読み聞かせを実施していただき、子どもたちは集中して聞いている。高学年の子どもたちも興味をもっている。学校図書館担当職員は、子どもたちが学校図書館を使いやすいように、季節ごとに展示を工夫していて、大変環境が整っている。

委 員：司書モデル事業の現場の声はどこかに反映されているのか。

委 員：学校図書館研修会で情報交換している。市立図書館からの長期休業中の貸し出し「YA みらい文庫」が中学校で活用されていて助かっている。

委 員：子ども向けの郷土に関する本が古いので、新しくまとめたものを検討していただきたい。

教育長：今後、教育センターで検討する。

会 長：特色ある事柄を知る人が少なくなっているため、検討いただきたい。

委 員：大人にとって、市立図書館は大変充実している。しかし、子どもが行く場所がなくなりつつあり、各交流センターに本を巡回していただくことで、本を通じて子どもと高齢者のつどいの場になればいいと思う。

会 長：各交流センターには、どのような頻度で行っているのか。

事務局：中央図書館から遠い距離にある福光地域の交流センターに、月1回（毎月第2木曜日）、団体貸出を実施している。  
今後、共通システム化による本の巡回便の充実を図り、全地域の交流センターで本の受取りや返却を開始していきたい。

会 長：「なんと！バースデーブック事業」の周知はどのように行っているのか。

事務局：広報なんと、南砺市立図書館のホームページや新聞等で周知を図っている。

委員：保育園、保健センターでの検診等でも周知が必要ではないか。

事務局：保育園や保健センターでの周知も図っていききたい。

委員：広報誌は文字が多いと読まない傾向にあるので、工夫が必要ではないか。

事務局：検討する。

会長：「なんと！バースデーブック事業」は17冊の絵本の中から選んでいただくのか。

事務局：市内5館の図書館に17冊の絵本を展示しており、実際に絵本に触れ選んでいただいている。

委員：市からダイレクトメールが届くことになっているのか。

事務局：こども課の「なんとのお宝祝い事業」の案内封書といっしょに封書が届くことになっている。また、子育て支援アプリ「なんと Hug」を通じて、情報を発信し周知を図っていく。

委員：今年度、共通システム化の準備を行っていく上でのメリットを期待している。本を読むことが好きな児童は、学校と市立図書館で読んだ本の冊数や履歴を積算することができるようになり、励みになる。また、授業で小学3年生が図書館を訪問するが、図書館の魅力や楽しさを伝えていただきたい。

・閉会のあいさつ 岩井副会長

地域づくり協議会で、最新システムを導入している新しく大きな図書館を見学したことがあるが、南砺市は、南砺市に相応しい図書館のあり方を追求していきたいと考える。今後、それぞれの立場でご意見をいただきたい。